

武田科学振興財団杏雨書屋

特別展示会 「天保の本草学—楮鞭会に見る学びのかたち—」

研究講演会

富山藩主 前田利保公の学び—本草・楮鞭会を通して

令和4年4月23日

兼子 心

(富山市売薬資料館 学芸員)

はじめに

「本草」界での利保公 富山での利保公

1、利保公の人物と生涯 生きた時代 年表参照

前田利保 寛政12年(1800)～安政6年(1859) 富山藩10代藩主(天保6年～弘化3年)

幼名 啓之介 出雲守・長門守 字 伯衡

号 萬香亭・益齋・自知春館・恋花圃・辨物舎・清薫・在樹・千歳

父 利謙公(8代藩主 1767～1801)、母 稲(美須 芳心院)、

義父 利幹公(9代藩主 1771～1836) 夫人 久美(宝珠院 広島藩主浅野齐賢娘)

多趣味、教養 和歌(海野遊翁)、語学、香道、茶、能(宝生流)、蘭学、書、

古銭(服部仲)、蹴鞠(飛鳥井)、兵法

資料 「龍澤公御随筆」(自著のもの) 著作物は100種を超える

「前田氏家乗」(明治23年)、「正甫龍沢二公及利寛公子」「故富山侍従兼長門守前田利保公略」(明治27年)、前田文書・市川文書(富山県立図書館)

2、本草・楮鞭会の活動 主として江戸で

・江戸藩邸内(池之端 上・中屋敷、浅草 下屋敷、巢鴨抱屋敷)

「幼より草木の癖有」 200種もの薺花 薬花の盆種を庭に集める 玉石も?

本草綱目の順に植栽 「松平出雲守殿園中草木覚」 のち「万香園裡花壇綱目」

・『大和本草』貝原益軒、小野蘭山 などを参考に

『庶物類纂』文化丁丑年写(14年1817)「和名を推し当んと…」→『本草通串』編纂へ

宇田川榕庵に蘭書を、岩崎灌園『本草図譜』→大正復刻版に利保公所蔵版

・物産の学 楮鞭会

栗本瑞見 丹洲、黒田斉清 楽善堂、吉田九市

設楽市左衛門 妍芳、田丸六蔵 寒泉、馬場大助 資生、飯室庄左衛門 楽圃、武蔵石寿、

佐橋兵三郎 四季園、浅香直光 青洲、清雅(大坂屋四郎兵衛)ほか

関根雲停、服部雪斎(絵師) 内山長太郎(植木屋)との交流

→仲間と鑑定討議研究をしよう場 植物のみならず様々なものを持ち寄って

植物以外にも、昆虫類、動物、貝、魚類への興味

人間 ヒトについて 『林娜氏訳附考』より「万香按ルニ所謂頭上ニ角アル者…」

*「癖の事」より「我博覧を知れといはぬ斗の様体、甚だ見にくし」 人間観察

*「世の事」より「今の世は…蘭学が流行…其内天文はみな漢も和も我知らず蘭説に引入られて…」

3、学びの機会を 主に富山内で

- ・富山各地へ巡視 下ノ茗温泉へ湯治 西白木峰(金剛堂山)登山 など
- ・千歳御殿(嘉永2年) 城の東出丸に隠居場として建築 (~安政2年)
- ・日新会(嘉永5年) 物産会(嘉永6年) ←江戸での楮鞭会のようなものを目指したか
前田利民(利保公の義弟 「禽譜図解」など鳥類研究)
- ・「本草通串」「本草通串証図」の作成(証図嘉永6年序) 出版事業
利保公の集大成 94巻56冊 5巻5冊
書筆(岡田淳之・加藤竹窓・小西有斐など)、版木の彫り、摺り、紙、装丁
絵画(山下守胤・山下一胤(勝・式とも)・木村立嶽・松浦守美)
- ・富山藩薬品会の開催 「即ち今ノ博物館ノ如キナリ」「(前田氏家乗)」
藩医・藩士など参加 藤沢周 音人「奇草小図」
- ・和歌 鳳凰連 浅野光武・山崎茂樹・小林佐倍・伊林禮初

4、藩の産業策へ

- (1) 産物方設置 天保8年 相続く凶作や飢饉から 藩政の刷新、国産の振興のため
唐蠟・櫨や漆の植樹 甘蔗(砂糖苗)、甘藷(サツマイモ)の栽培 などの対策
- ・陶器生産 婦負郡丸山村農家の甚右衛門 針原村、東田地方でも
 - ・徒組格堆錦塗方細工人立田平蔵 文房具・香具・膳部類の制作
 - ・機屋掛、織物掛 木綿・紙布・紬など、京都西陣より職工を招き錦類を能装束用に

(2) 売薬商売との関連

薬種の取引について 「町吟味所御触書留」より(部分のみ 句読点なし)

- ・天保15年8月14日 薬種屋以外商売禁止申触書
「…元来薬種の儀は真偽之差別も有之、殊により人命にも拘り候品柄故、嚴重締り方申付置候次第にて外商売もの洩薬種取扱間敷義は勿論の義に候…」
- ・嘉永3年2月24日 薬種会所新設につき薬種取扱心得方申渡書
「…殊に寄人命にも抱り候品物故、嚴重締り方申付置候次第に候、依て以来大坂の外自然他国より売買の薬品も右同所より御買上に相成候条、猥に取扱候義堅不相成候…」
(薬種会所)

- ・同年9月26日 薬種会所指止申渡書

*9月23日~10月朔日 大殿様下ノ茗温泉へ

(3) 薬草園を設ける

藩士 徒組 清水源兵衛、町人 宮嶋屋仙右衛門(売薬商人)が薬草栽培掛を請負う
富山城東廓園内 千歳御裏役所、御薬園 東田地方の大小軒、藩士の空屋敷にも
嘉永6年~安政4年頃

5、おわりに

日常生活の一部 学芸活動

豊富な学びの場を積み重ねて 身分の分け隔てなく、学びの場を提供

利保の影響 藩政・国内産業そして売薬業への関連 明治期以降の医薬へ

前田利保公関係年表			
年号	西暦	藩主	災害など
寛政12年	1800		利保2月28日江戸に生まれる 父は8代藩主利謙、母は美須(稲)
享和元年	1801	9利幹	大聖寺5代藩主前田利道の八男 利幹を急養子 江戸で利謙が卒(35歳)
享和2年	1802		富山町内に3ヶ所「惠民倉」凶荒に備え
享和3年	1803		塩座を設置、勘定所扱い
文化元年	1804		岡田淳之(万三郎栗園)広徳館訓導筆頭
文化2年	1805		
文化3年	1806		※矢印は江戸にいた期間を示す
文化4年	1807		
文化5年	1808		蝦夷地臨時出兵
文化6年	1809		米穀不熟 商人の買占め等禁止
文化7年	1810		婦負郡で打ち毀し 深雪
文化8年	1811		広徳館が総曲輪から城内へ 閏2月利幹の嫡子と届出、世子となる 3月松平安芸守齊賢娘と縁組
文化9年	1812		
文化10年	1813		富山・八尾で打ち毀し
文化11年	1814		
文化12年	1815		2月広島藩主浅野齊賢娘久美と婚約
文化13年	1816		10月元服
文化14年	1817		12月出雲守に叙爵
文政元年	1818		9月初めて所領富山へ
文政2年	1819		3月江戸へ、6月初登城
文政3年	1820		12月久美と結婚
文政4年	1821		
文政5年	1822		不作、悪疫が流行 救恤米
文政6年	1823		舟橋向の愛宕町の火事
文政7年	1824		12月従四位下に叙
文政8年	1825		江戸邸が火事で類焼
文政9年	1826		
文政10年	1827		
文政11年	1828		
文政12年	1829		1月江戸で青山因幡守の行列と衝突
天保元年	1830		3月富山へ、富山城三の丸で起居
天保2年	1831		3月江戸へ
			4月西田地方より火事(富山町最大)、幕府より5千両貸与
天保3年	1832		6月15日富山城の修營が許可
天保4年	1833		石田小兵衛に改革依頼、来富
天保5年	1834		2月六男鏑之丞・啓之介 生(後11代藩主利友)
			5月石田小右衛門来富
			10月25日家老堀江監物が藩札切替え失敗のため処罰
天保6年	1835		2月石田小右衛門来富
		10利保	10月利幹が病気のため致仕、利保が藩主となる
天保7年	1836		4月浅草御蔵の火番を命じられる
			7月利幹が逝去(富山にて)
			9月緒鞭会の会則「緒鞭会業規則」を撰
天保8年	1837		5月富山へ(旅費を節約)その直後領内巡視 新たに産物方を藩の機構として設置 唐津物差止 井田村に丸山焼
天保9年	1838		1月家老近藤丹後ら失政のため処罰
			3月江戸城西の丸焼失 江戸へ、4月江戸着
			11月三陸沖で長者丸漂流
天保10年	1839		8月3日江戸城西の丸修築費2万5千両の負担 婦負郡丸山村で甚太郎が丸山焼を始めたか
天保11年	1840		
天保12年	1841		5月富山へ
			10月領内洪水・江戸城西の丸修築の功績により参勤交代免除
天保13年	1842		1月生母芳心院が江戸で逝去
			7月江戸へ
天保14年	1843		5月啓之介を嫡子とすることを幕府より許可(後の利友)
			6月富山へ
			富山藩海岸防備の人員配置などを幕府に届け出
弘化元年	1844		2月反魂丹役所を産物方支配とする
			3月啓之介と共に江戸へ、4月着
弘化2年	1845		6月江戸城本丸の修復費として5年で5千両献上することを願出
			6月病気のため帰富延期を申請し許可

この頃緒鞭会主催・参加

弘化3年	1846		3月本郷上屋敷広式長屋より出火、巢鴨抱屋敷に移る 3月上屋敷焼失のため幕府が献上の千両を返却 9月病により加賀藩に隠居を相談、10月隠居を願出、許可	
		11利友	11月息子の利友が家督を継ぎ11代藩主	
弘化4年	1847		江戸一帯で植物採集	
嘉永元年	1848		9月下ノ茗温泉での湯治を願出 9月富山へ、下ノ茗温泉へ1週間出かける	
嘉永2年	1849		5月東出丸に隠居所として千歳御殿を新築し移る	
嘉永3年	1850		1月藩医横地元丈を江戸に派遣して種痘術を習得させる 2月病氣治癒のため20か月に1度の湯治を許可	薬種会所新設・廃止 甚雨、諸川大洪水
嘉永4年	1851		5月日光東照宮の修繕費1万3千両余りを献上(宗藩へ) 8月国産紙の使用申し渡し	日照り続き、その後水害 天然痘流行
嘉永5年	1852		12月火事で焼失した富山城大手門などを新築 草木品評会の日新会を富山において開催	
嘉永6年	1853		3月富山と飛騨の國境近くの西白木峰(金剛堂山)に登る 東田地方の一区域を薬草園とし大小軒と称す 6月富山藩薬品会が大法寺で開催	『本草通串』 『本草通串証図』序
		12利声	12月11代藩主利友が逝去(20才)弟利声を嗣子とし12代藩主	
安政元年	1854		12月利声が従五位下・主計頭、従四位下・大蔵大輔となる	
安政2年	1855		2月中野村から出火、大火事となり五千軒以上、千歳御殿焼失 7月加賀藩より政治向詰問のため篠原監物を派遣 家老富田兵部の反逆疑義のため近藤石見を江戸へ派遣	
安政3年	1856		3月湯治に出かけ、八尾紙会所に休憩 11月藩主利声と老中阿部正弘の縁組	
安政4年	1857		3月利声病氣につき、利保が藩政を執る 12月老中阿部正弘との縁組が破談 4月家老富田兵部に帰国命令、帰富の途中籠の中で自刃 9月佐藤信淵の経済開物に関する遺書を子の昇庵(儒医)が講義	
安政5年	1858		2月安政の大地震、白の石垣なども崩れる 3月・4月大鷲・小鷲山崩れの土砂で常願寺川が決壊し大洪水	大地震、立山鷲山崩れ 常願寺川洪水 御救米
			5月利声隠居、加賀藩指示により利保が政務を執る、目付派遣	「流行の暴瀉病治療法につき申し触れ書」
安政6年	1859		4月ロシア船が富山湾沖を通過 8月利保逝去(幕府へは12月20日逝去と届出) 光厳寺で葬儀、長岡御廟に埋葬	4月頃痘瘡が流行 甚雨、大洪水 風水損で御救米
		13利同	10月宗藩より津田内蔵助ほか富山藩へ、11月利声隠居、 加賀藩主前田齊泰九男利同が富山藩主となる	

<参考文献>

- 綿拔豊昭 編『龍沢公御随筆』 桂書房 1994年
高瀬保 編『町吟味所御触留書』(越中資料集成) 桂書房 1992年
村上清造 編『富山市薬業史』 富山市商工労働部薬業課 昭和50年
高岡高等商業学校『富山売薬業史史料集』 岡書院 昭和10年(昭和51年 国書刊行会復刻)
難波恒雄「富山藩の薬業と本草」 上記下巻
富山県『越中史料』 第3巻 名著出版 昭和47年
富山県『富山県史』 通史編・史料編近世下 昭和58・57年
近世歴史資料研究会『近世植物・動物・鉱物図譜集成』 科学書院 2006年
富山県[立山博物館]『立山に奇草を求めて—富山藩薬品会を通して—』 展示図録 1999年
平野満「天保期の本草研究会『赭鞭会』—前史と成立事情及び活動の実態—」
(『駿台史学』第98号) 1996年
磯野直秀「日本博物学史覚え書」(『慶応義塾大学日吉紀要・自然科学』No.44) 2008年
田中純子「関根雲停の植物画と前田利保—植物画の制作状況の検討—」
(『杏雨』第20号) 武田科学振興財団杏雨書屋 平成29年
平野恵「採薬の実際」(『生活文化史』第76号) 令和3年
磯部彰『薬の都富山の漢籍と漢学—藩校広徳館とその蔵書—』 汲古書院 2021年
*年表にもこの他に多くの文献を参考にさせていただきました。